

表紙に登場した事業所の取り組みや
その思いについて何うコーナーです。

みずたま介護ステーション 新所沢

杉崎昌紀さん



Vol. 12

ターミナル期の家族と 医療職をつなぐ 架け橋を目指して



※編集部：撮影にあたり、マスクを外していただきました。



東京海上日動ベターライフ
サービス株式会社
みずたま介護ステーション新所沢
(埼玉県所沢市)

2005（平成17）年9月に開業、2016（平成28）年5月に現住所へ移転。訪問介護事業所が併設されており、連携を密に取りながら利用者支援に当たっている。現在4名（男性3名、女性1名）のケアマネジャーが在籍している。

— 支援で大切にしていることを教えてください。

当事業所ではターミナル期の支援に力を入れています。介護度にかかわらず、「自宅で最期まで過ごしたい」と希望される利用者は少なくありません。そうした思いを叶えるために、特に重要となるのは、医療との連携です。状態が急変したとき、すぐに対応できる体制を整えることはもちろん、家族が安心して医師とやりとりができるように、訪問診療の日には必ず同席し、必要に応じて家族をサポートしています。

— 事業所ではどのような取り組みをしていますか。

業務の属人化の防止に取り組んでいます。ケアマネジャーは一人で動くことが多いため、自分なりの判断で仕事を進めがちです。必ずしもそれが悪いということではありませんが、担当者以外がその利用者の状況を把握していないことにもなりかねません。それを防ぐために、それぞれが担当するケースの状況を報告する機会を月に1回設けています。こうした場があることで、悩みや課題も共有し合い、相談し合える関係が築けています。

— 最近、課題となっていることなどはありますか。

8050問題など、以前とは異なる課題を抱える利用者が増えている印象です。そのため、今までは利用者の支援を中心に考えていればよかったのですが、家族の状況にもより目を向け、支援を検討する必要が出てきました。こうした課題に対応するためには、行政や他職種との連携が欠かせません。さまざまな窓口の担当者と顔の見える関係性を築くことを大切にしています。

